

## 5. 地盤沈下

## 5. 地盤沈下

### 5.1 調査

#### (1) 地形及び地質の状況

##### ① 調査方法

地形の走向・傾斜、斜面形状、地形の種類、地形の形成過程、地表及び地下における地質の分布、地表の被覆・雨水浸透の状況、軟弱地盤の分布並びに土層の種類及び物理的性質等の状況について、「地形分類図 藤沢・平塚」(昭和 63 年 3 月、神奈川県)等の既存資料調査及び現地調査により調査した。

また、現地調査は図 5.2.5.1 に示す 6 地点において、地質の状況、土質データ等を対象に、ボーリング調査及び室内試験により調査した。現地調査は平成 19 年に実施した。

##### ② 調査結果

#### ア. 既存資料調査

実施区域及びその周辺地域は、相模野平野に位置している。この平野は、地形の成り立ちから、海浜に形成された砂州・砂丘地帯からなる海岸平野と相模川水系及び金目川水系の河川によって形成された沖積平野に区分され、上流部の「扇状地」、中流部の「自然堤防」および「後背湿地」、下流部の「砂州・砂丘」に大別される。

相模川中流部に位置する実施区域の周辺地域は、相模川と渋田川に挟まれた自然堤防地帯に該当し、相模川及び金目川水系の河川の氾濫により形成された地域である。

実施区域及びその周辺地域は、標高 10m 程度で南方に緩やかに地表面高度が下がる平坦地であり、相模川側と渋田川側の氾濫により形成された微高地である自然堤防が分布し、この自然堤防上には旧街道が走り古くからの集落が立地している。

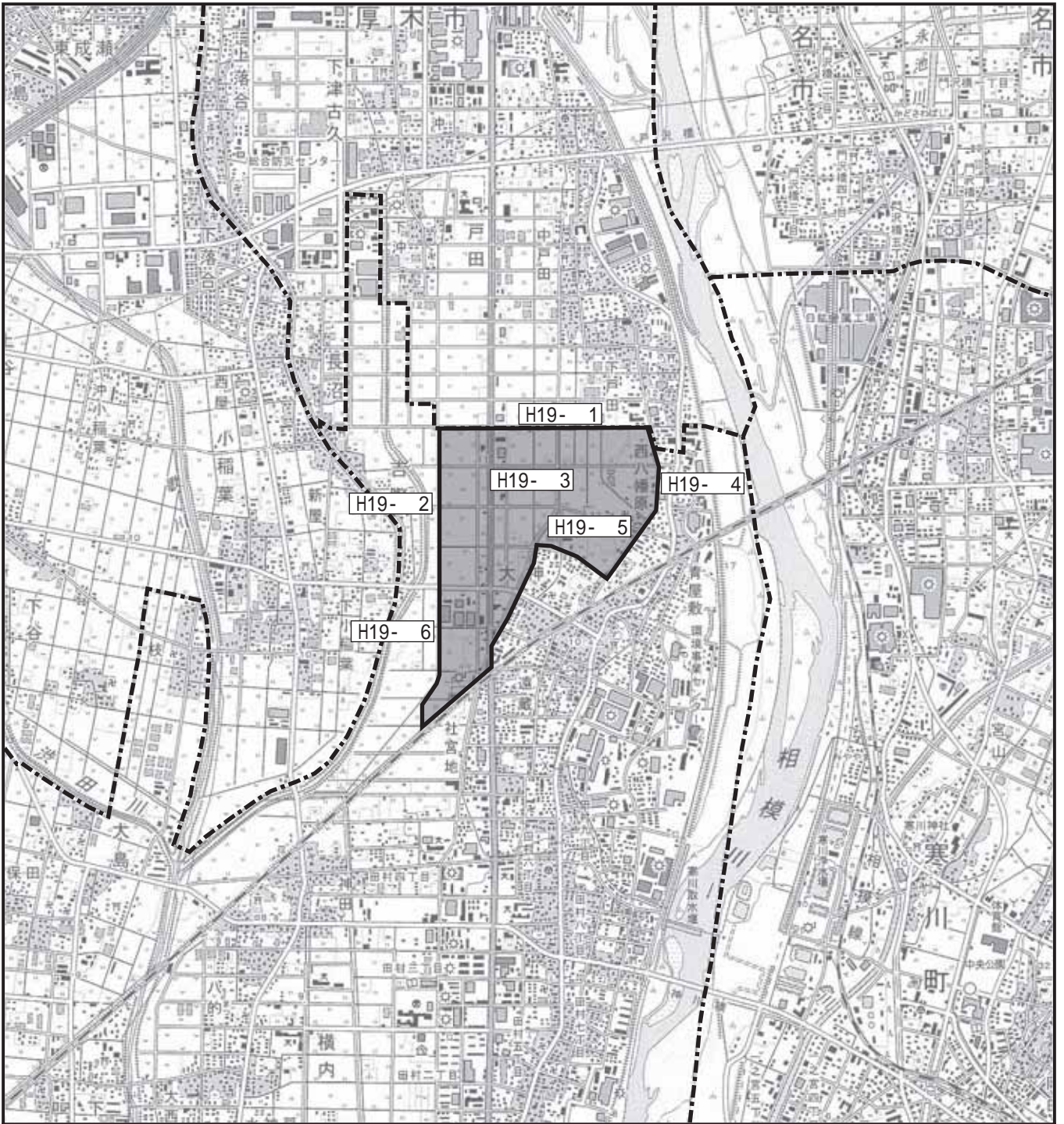
また、自然堤防背後には標高が相対的に低くなっている後背湿地が分布し、水田として利用されている区域で、実施区域の多くがこの後背湿地にあたる。

実施区域及びその周辺地域の地質は、図 5.2.5.2～3 に示すとおりである。

実施区域及びその周辺地域は、相模川を中心に河川の堆積作用によりできた相模川沖積低地と呼ばれている。相模川沖積低地の沖積層の厚さは、相模川河口付近で約 90m、東名高速道路付近で約 55m であり、上流にいくに従って薄くなる。この沖積層は下位から、基底礫層、下部砂礫・泥層、中部砂礫層、上部泥・砂層、頂部泥・砂礫層に区分される。

実施区域及びその周辺地域の沖積層の厚さは、約 40～60m であり、上部から頂部泥層、上部砂・泥互層、下部泥層、下部砂礫層が分布している。

また、実施区域には大規模な断層は確認されていない。



凡 例



: 実施区域



: 市町境

: 地質調査地点 (ボーリング調査地点)

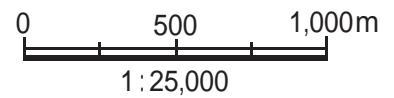


図5.2.5.1 地質調査地点

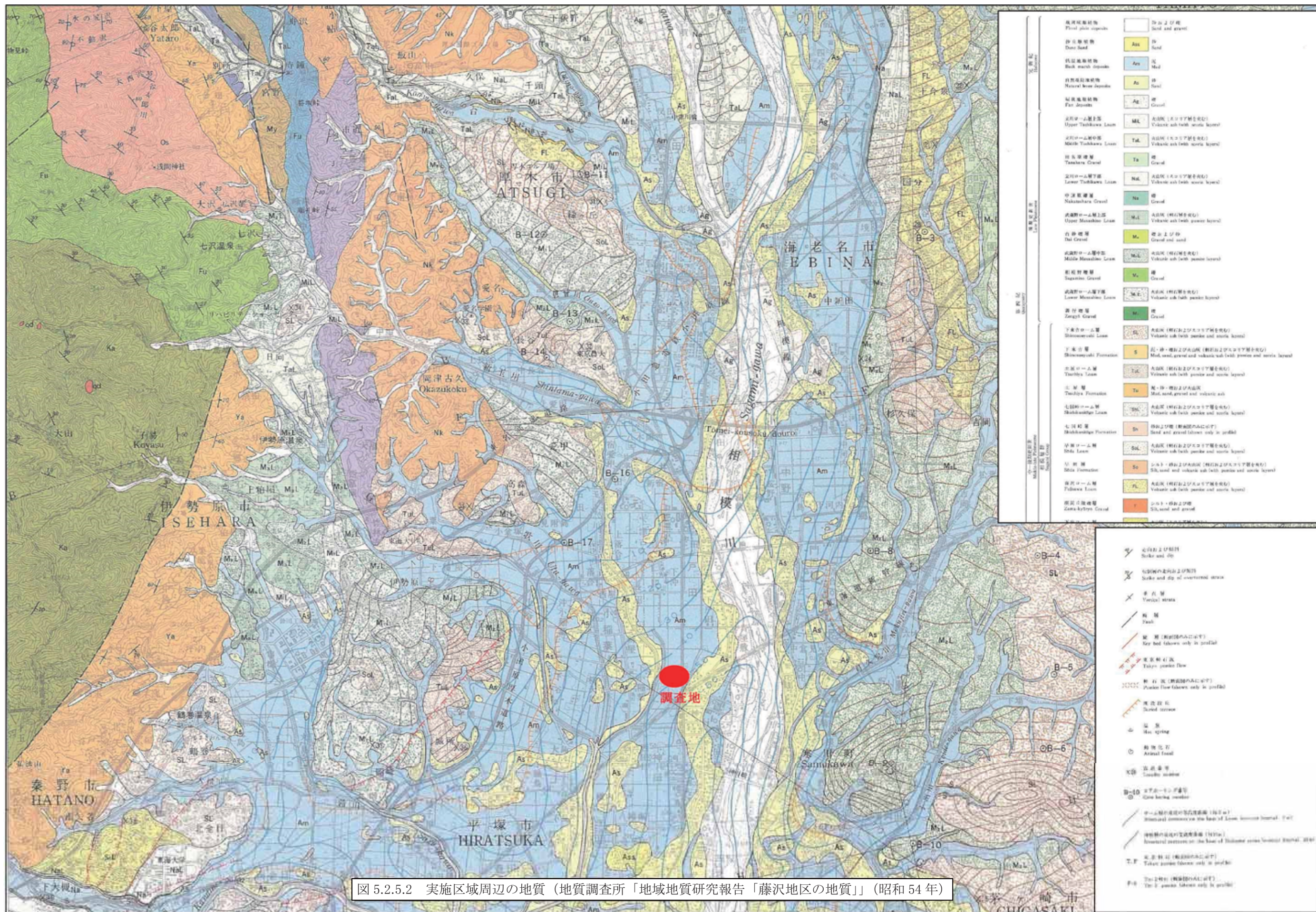


図 5.2.5.2 実施区域周辺の地質（地質調査所「地域地質研究報告「藤沢地区の地質」」（昭和 54 年）

地層名	記号	土質
低湿堆積物	Am	泥
自然堤防堆積物	As	砂
扇状地堆積物	Ag	礫
武蔵野ローム層上部	M <sub>3</sub> L	火山灰（軽石層を挟む）
台砂礫層	M <sub>3</sub>	礫及び砂
武蔵野ローム層中部	M <sub>2</sub> L	火山灰（軽石層を挟む）
相模野礫層	M <sub>2</sub>	礫
武蔵野ローム層下部	M <sub>1</sub> L	火山灰（軽石層を挟む）
善行礫層	M <sub>1</sub>	礫
相模層群	S <sub>a</sub>	
下末吉ローム層	SL	火山灰（軽石及びスコリア層を挟む）
下末吉層	S	泥・砂・礫及び火山灰（軽石及びスコリア層を挟む）
土屋ローム層	TuL	火山灰（軽石及びスコリア層を挟む）
土屋層	Tu	泥・砂・礫及び火山灰
七国峠ローム層	ShL	火山灰（軽石及びスコリア層を挟む）
七国峠層	Sh	砂及び礫
早田層	So	シルト・砂及び火山灰（軽石及びスコリア層を挟む）
座間丘陵礫層	F	シルト・砂及び礫
下庭層	Si	シルト・砂及び礫
大庭砂礫層	Zo	シルト・礫及び火山灰（スコリア層を挟む）
	T.P	東京軽石

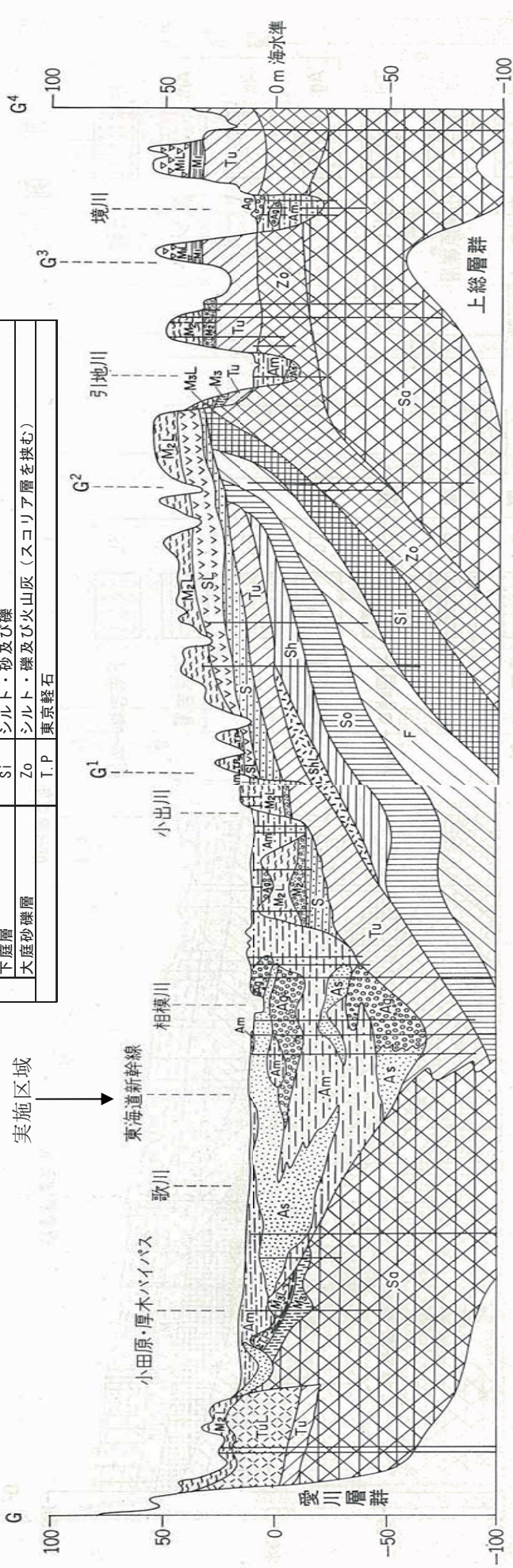


図 5.2.5.3 実施区域周辺の地質断面（出典：地質調査所「地域地質研究報告 藤沢地域の地質」（昭和 54 年）